



一人一人が大切にされる学校

▼11月11日(金)の6校時、「ジェンダー平等」について理解を深め、「人権」について考えることを目的に、全校道徳を行いました。▼前半は、養護教諭の高井先生が、「違いを認め合い、一人一人を大切に」というテーマで、「くまのトーマスはおんなのこ」という絵本を使って、授業をしてくださいました。その中で、身体の性と心の性が一致しない人や違和感をもつ人(性的マイノリティ)が統計的に3~8%がいて、悩んだり、つらい思いをしたりしていることが紹介されました。そして、「性の在り方は様々であり、人は等しく尊重される大切な存在であることから、差別につながるジェンダーは見直していくことが大切である。」とまとめてくださいました。▼続いて、私からは「一人一人が大切にされる学校を目指して」というテーマで以下のような話をしました。(抜粋)



▼学校とは、毎日の授業をはじめ、先生や友達、先輩・後輩といった多くの人との関わりを通して、皆さん一人一人が「将来、自立してたくましく生きていくための学びの場であり、成長の場」であると考えています。▼そして、うれしいことに、多くの生徒が、前向きに充実した学校生活を送ってくれています。しかし、その一方で、人との関わりが苦手であったり、学校に登校できない生徒もいます。そのような生徒に対しても、将来、自立してたくましく生きていけるような様々な支援を粘り強く行い、「誰一人取り残さない学校づくり」を今後も強力に推し進めようと考えています。▼この「誰一人取り残さない」社会の実現は、持続可能な開発目標(SDGs)の基盤となる考え方であり、市川三郷町も、SDGsの取組を通して「持続可能で、誰一人取り残さない町」を目指しています。▼このSDGsの17のゴールを実現するための根底となる考え方がゴール5「ジェンダー平等を実現しよう」だと言われています。(ジェンダー主流化)。▼この「ジェンダー」とは生物学的な性別ではなく、長い歴史の中でつくられてきた「男らしさ」「女らしさ」のような

社会的・文化的な性別のことをいい、先ほどの高井先生のお話の通り、つらい思いや苦しんでいる人がいます。▼ここで、大切なことは、「間違いに気づいたら、変えていく」ことだと思います。ジェンダー平等の実現に向けては、本校においても性別で分けない名簿や整列等に取り組んできました。また、生徒会活動においても昨年度は生徒総会で選挙規定を見直し、男女に関係なく立候補できるように改正しました。今後も、生徒会活動においても「これっておかしいよな」という視点を大切にしたい取組を展開してくれることを強く望みます。▼そして、学校として、今後変えていく必要があると判断したことが、「制服の問題」です。現在、市川中学校では、校則で男子は学生服、女子はセーラー服となっていて、男子にはスラックスを、女子にはスカートを義務づけて、個人による選択の余地(「多様性」)がありません。また、防寒対策や動きやすさといった「利便性」は十分と言えるでしょうか?▼そこで、これを機に取り組みたいのは「多様性や利便性を兼ね備えた制服」の導入です。しかし、これはすぐにできる「簡単」な取組ではありません。だからこそ、次の世代に先送りするのではなく、みんなで知恵を出し合い、しっかりした準備をして、今、真正面から取り組むべきことであると考えています。なぜなら、今の市川中学校は、幸い、この難題に立ち向かえる生徒、職員、保護者がそろっているからです。▼そこで、本校では、本日の全校道徳を機に、生徒、保護者、教職員が、「ジェンダー平等の実現」に真摯に向き合い、「一人一人が大切にされる学校」につなげるべく、「多様性や利便性を兼ね備えた制服」の導入に向けての検討をはじめたいと考えます。▼なお、制服の変更に関しては、検討委員会を立ち上げ、丁寧に進めたいと考えています。現時点での構想は、多様性や利便性を兼ね備えた制服、具体的には、男女ユニセックスなデザインの「男女兼用型」、スカートやスラックス、ネクタイやリボンなどが可能な「組み合わせ型」の制服を令和6年度の入学生から導入しようと考えています。▼生徒の皆さんにとっては、自分たちが直接着用しない制服変更への取組となりますが、この取組を通して、皆さん一人一人が「未来の創り手」となり、この市川中学校がさらに「一人一人が大切にされ、活気のある学校」となるよう頑張っていきたいと思います。

▼後日、保護者への説明会を開催する予定です。また、裏面に生徒の感想を載せておきますので、ご覧ください。